

## 令和3年度 さいたま市立城北小学校 自己評価書

校長 西谷健児 印

### 1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 国語科の学校課題研究推進、「よい授業」4つの因子の活用、GSスキル習熟定着の工夫改善による学力の定着と向上を通じたGritの育成
- (2) あいさつ運動の推進、心を潤す4つの言葉の啓発、道徳教育の推進、組織的な生徒指導・教育相談・特別支援教育体制、体育指導の工夫改善を通して丈夫な心と体をつくる
- (3) 「潤いの時間」、GS、少人数指導、アクティブラーニング、ICT活用、学校図書館の活用、学校学年行事、特別支援教育の工夫改善を通じたGlobalでほう富な才能の育成
- (4) 小・中一貫教育、チャレンジスクール、学校HP、学校公開、個人面談、SSN、安心メールを活用したGrowthの育成を支える地域・保護者・小中の連携を推進する
- (5) いじめ防止基本方針、危機管理マニュアル、学校安全計画を基にした安全で美しい学校づくり
- (6) 働き方改革の推進

### 2 評価結果について

- (1) 学力の定着と向上では、「授業が楽しい」について概ねよくできているとする割合、保護者84%・教職員61%、「基礎学力の定着」保護者84%・教職員42%、「考える力」保護者83%・教職員45%。特に教職員の厳しい見方が顕著で、より一層の指導方法を工夫改善していくことが必要と言える。
- (2) 「あいさつ」について、保護者からの概ね良好の評価は51%に留まり、昨年度の結果より低い水準にであった。コロナ禍の影響もあると思われる。道徳教育については、児童は「思いやり」90%、「生命尊重」94%、概ねできていると回答しており、いじめの認知件数も昨年度より増加している。配慮すべき児童は多くおり、今後も情報共有を徹底し、組織的な対応をしていく必要がある。
- (3) 「潤いの時間」に関しては、3年生以上のクラスで毎学期始めに定期的実施している。朝のGSタイムでは、担当が工夫しながらDVDを作成し視聴する、学年に合わせた教材の作成をし、書くことに特化する等のことを実施している。ICTの活用に関して、タブレットを使用した学習は、分かりやすいと回答した児童の割合は90%であった。タブレットを使用した授業の提供を行っている教職員の割合は74%、タブレットを使用した学習の様子が保護者に伝わっている割合は47%に留まった。
- (4) 「Growthの育成」を支える保護者・地域・小中の「連携」について、今年度のコロナ禍の中では、81%の保護者が概ね「学校の様子が伝わっている」と答えており、「学校公開の内容」も90%の保護者が概ねよいと答えている。PTA・地域の協力もよく得られており、今後ともこの関係を大切にしていきたい。
- (5) 保護者アンケートの「環境整備」について、概ね良好の回答が、今年度も71%に留まっている。保護者意見欄等から、トイレの改修工事ができてよかったとの意見があった。修繕等の取組状況については、学校だよりなどでさらに丁寧に説明していく必要がある。
- (6) 児童と向き合える時間の確保を第一優先にしながら、働き方改革をしていく必要がある。

### 3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・児童一人ひとりを大切に「わかる授業づくり」を目指し、学習状況調査の結果なども活用して、国語の学校課題研究の取組を手立てとして充実させ授業改善を図っていく。
- ・生徒指導委員会等、組織での情報共有をさらに徹底し、多様な専門職を有効活用して、いじめのない安心、安全で信頼される学校づくりに全教職員で取り組んでいく。
- ・教職員が「児童と向き合える時間の確保」をできるよう働き方改革を推進し、年間計画の作成等について、可能な改善をさらに工夫していく。

A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。

## 令和3年度 さいたま市立城北小学校 学校関係者評価書

さいたま市立城北小学校

学校関係者評価委員長 古宮 芳彦 印

### 1 学校関係者評価の実施体制

- (1) 構成人数 6名
- (2) 実施回数 3回 (うち1回は紙上開催)

### 2 学校関係者評価(学校関係者評価委員の意見等)

- ・コロナ禍での学校での指導が大変なことが分かりました。ご苦労様です。
- ・青少年育成会での図画展示の御協力ありがとうございました。展示作品から、児童の想像力、感性が素晴らしいと感じた。今後も、想像力、感性を伸ばす教育をしてほしい。
- ・児童と教職員が向き合う時間を確保し、引き続き向き合う時間を作してほしい。
- ・トイレの改修等で改善されてきているようで喜ばしいことである。
- ・自治会としてスクールゾーンを作る計画をしているので、進捗状況は適宜情報提供していく。
- ・「あいさつ」は、児童が思うほど、周り(の大人)は「今一つ(未だにできていない)」と感じているようだ。
- ・班長があいさつすると、あいさつする児童が多い。
- ・「喜んで登校している」「授業が楽しい」「思いやり」の項目は、児童にとっては、重要な事項だが、保護者と児童に差がある。
- ・思いやりの評価は、児童の前年度も今年度も90%以上の評価では、いじめのない学校評価と判断できる。
- ・毎年、そんなに変わらない感じがする。
- ・下校中に、じゃんけんで負けると荷物持ちをするなど遊びながら帰る姿を見かける。
- ・コロナ禍で休んでいる児童、職員がいるなど身近にコロナが流行っていることが分かり驚いた。
- ・ゾーン30など交通関係がだいぶ整理されてきたように思う。
- ・今後も地域で、事故・怪我が無いよう見守っていく体制が必要である。
- ・地域の方々に感謝しかない。
- ・(自分の)子どもの話から担任の先生の熱意が伝わってくる。
- ・SNSとかLINEなど、学校外での問題が顕著になって来ている。
- ・家庭で、どう使っていくか、児童にどう伝えるかが課題である。
- ・今後、スマホ教室などの指導は、低学年から保護者を巻き込んで必要な指導になっていく。

### 学校関係者評価を受けた学校の対応

- ・児童一人ひとりを大切に「わかる授業づくり」を目指し、学校課題研究の取組を充実させ授業改善を図っていく。個性に応じて児童が達成感を持てる指導に努める。
- ・生徒指導委員会等、組織での情報共有をさらに徹底し、多様な専門職を有効活用して、いじめのない信頼される学校づくりに全教職員で取り組んでいく。
- ・児童の安全、安心を第一に環境整備を進めていく。図書室が狭いので拡張するよう次年度も市への要望も含めて、できる限りのことをしていく。
- ・コミュニティスクールを視野に入れて、開かれた学校、多様性に応えられる学校づくりに取り組み、保護者、地域の皆様から、さらに信頼される学校にしていく。
- ・教職員の働き方改革をさらに推進していく。

さいたま市立城北小学校長 西 谷 健 児

